

カタクチイワシの資源・漁業 及び資源管理について



平成25年3月
水産庁

資料の構成

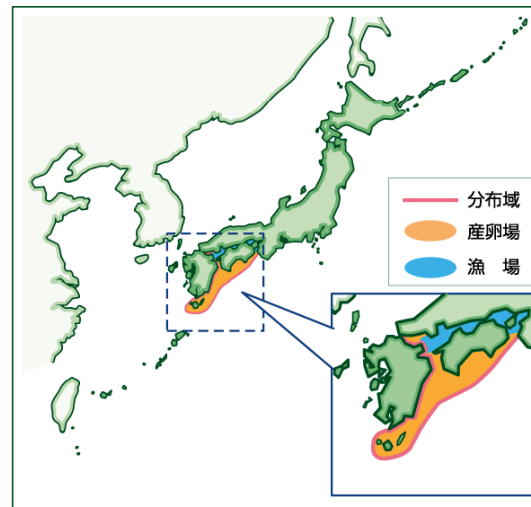
1. 生態等
2. 漁獲の状況
3. 資源の動向
4. 資源管理の現状
5. まとめ

1. カタクチイワシの生物学的特性・分布・系群

- 系群分類： 太平洋系群、瀬戸内海系群、対馬暖流系群に分けられる
- 寿命： 2～4歳
- 成熟開始年齢： 瀬戸内海系群は5カ月(55%)、6カ月(80%)、7カ月(95%)、8カ月以上(100%)、いずれの系群も1歳で100%
- 産卵期： 厳冬期除くほぼ周年
- 食性： カイアシ類を中心とした動物プランクトン
- 捕食者： サワラ、スズキ、サバ類、タチウオなどの魚食性魚類、鯨類
- 分布域・産卵場：



太平洋系群の分布域



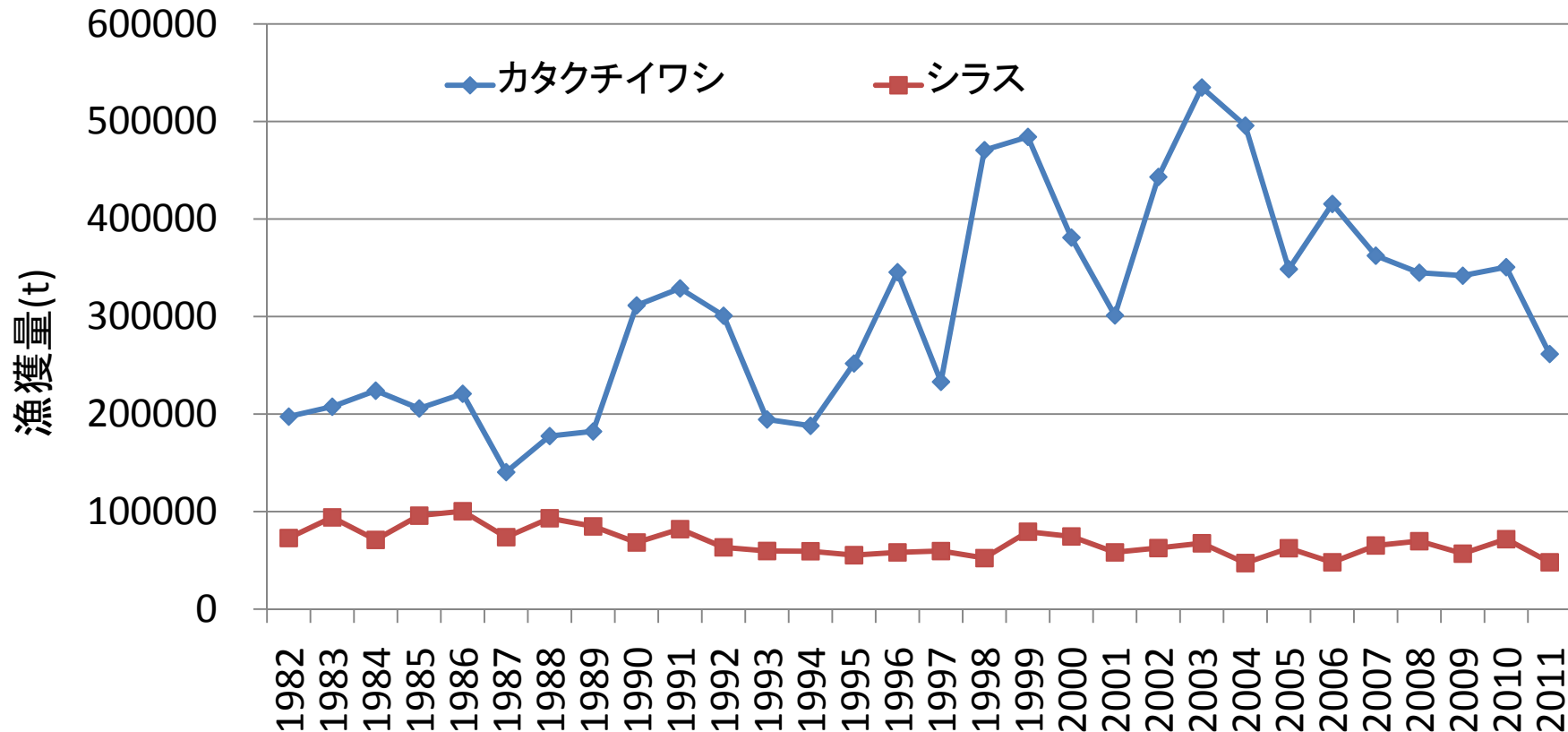
瀬戸内海系群の分布域



対馬暖流系群の分布域

2-1. カタクチイワシ・シラスの漁獲量推移

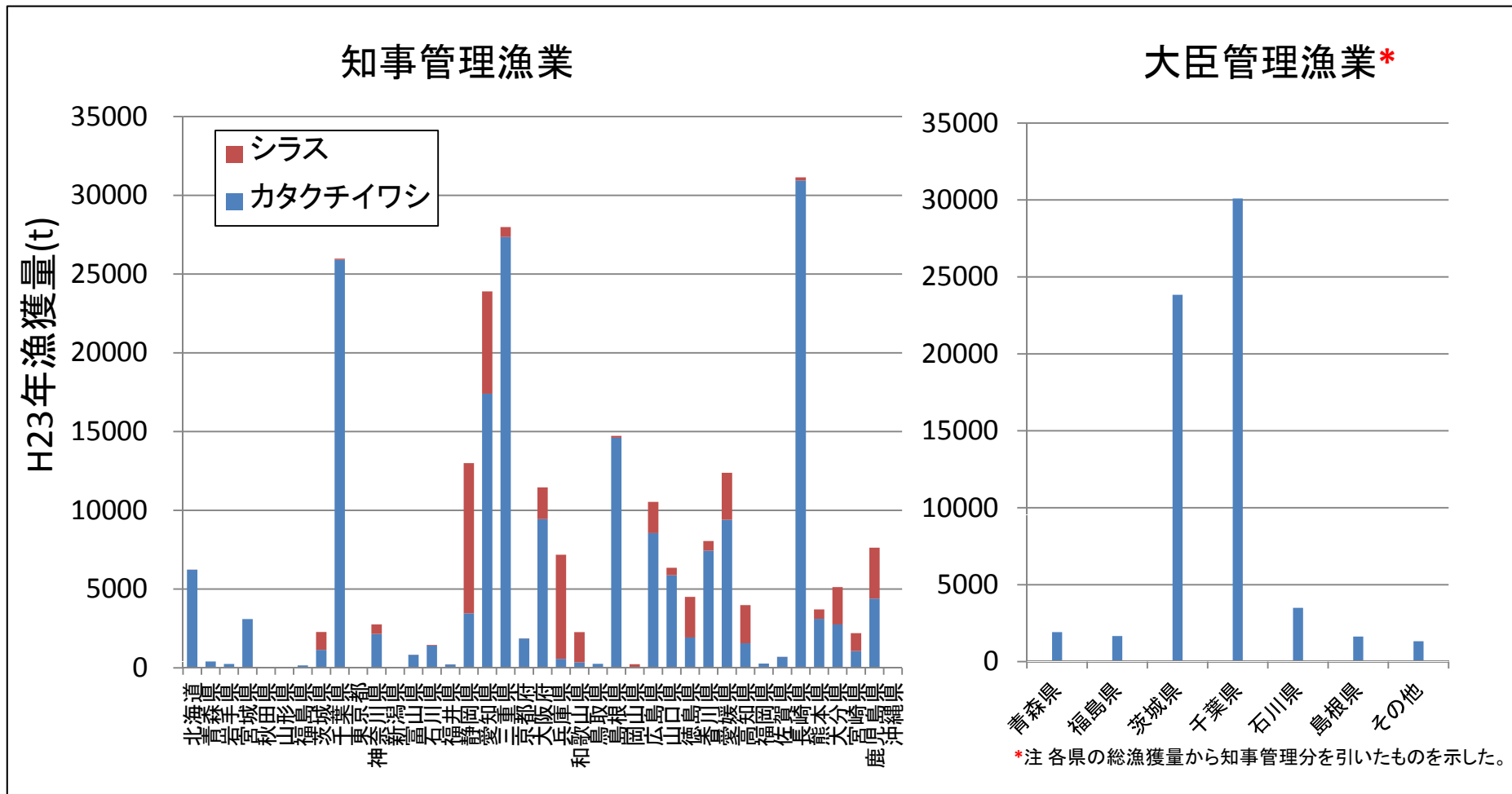
- カタクチイワシは成魚のほか、シラスでも漁獲されている。
- カタクチイワシの漁獲量は次第に増加し、近年概ね30～50万トンで推移。
- シラスは6万トン前後で概ね安定。
- シラスの漁獲にはカタクチイワシ以外の稚仔魚も含まれるが、現在はその殆どがカタクチイワシのもの。



出典：海面漁業生産統計調査より作成

2-2. カタクチイワシとシラスの漁獲状況

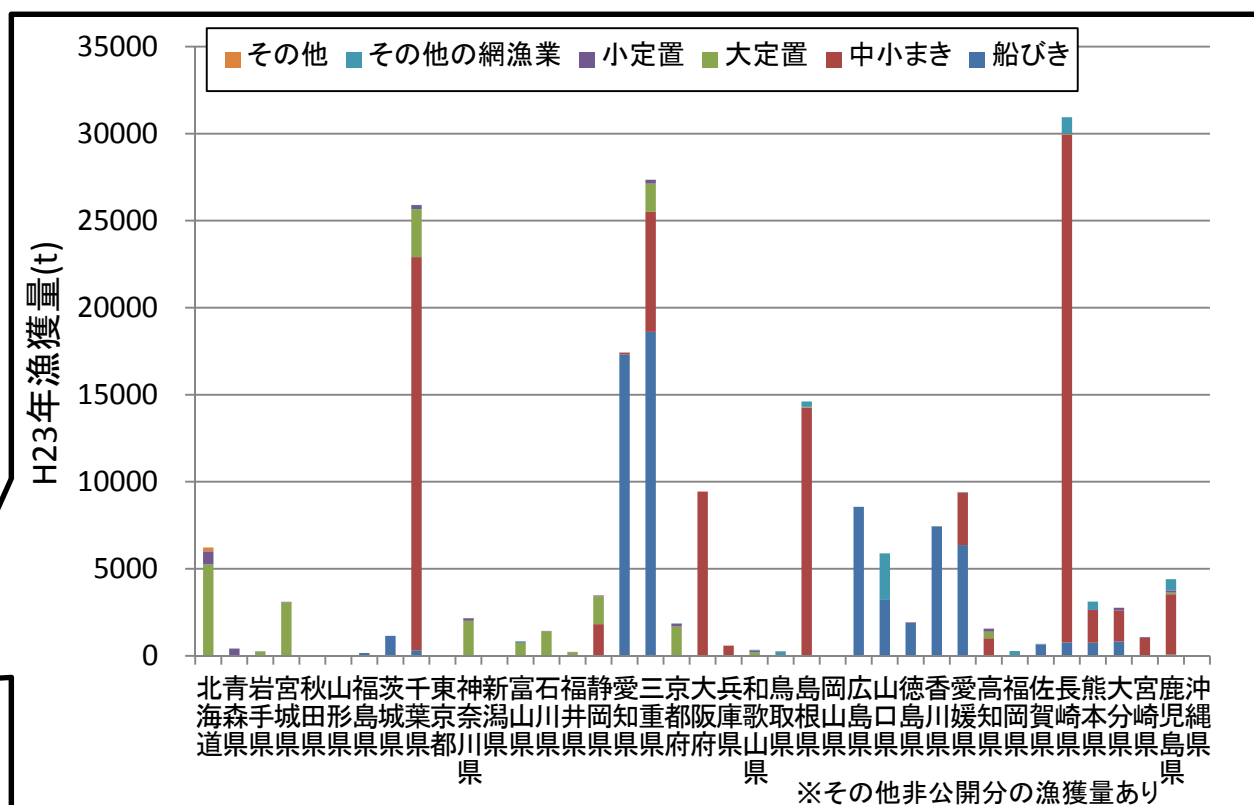
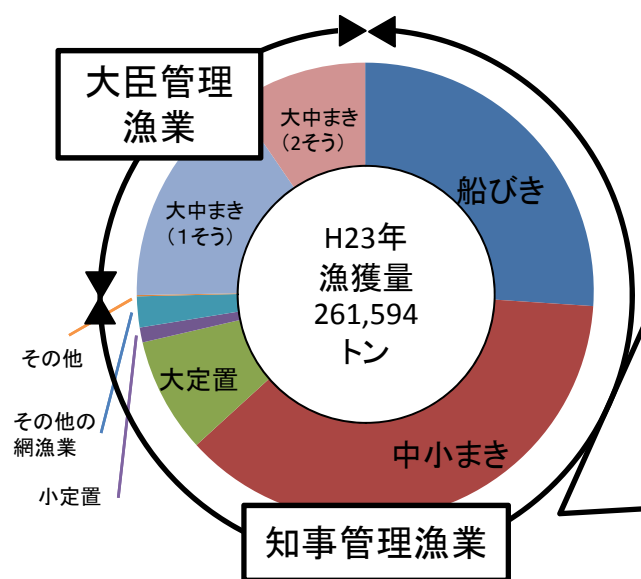
- 知事管理漁業においては、県により漁獲の大半がカタクチイワシであるものから、大半がシラスであるものまで、状況が大きく異なる。



2-3. カタクチイワシを漁獲する漁業

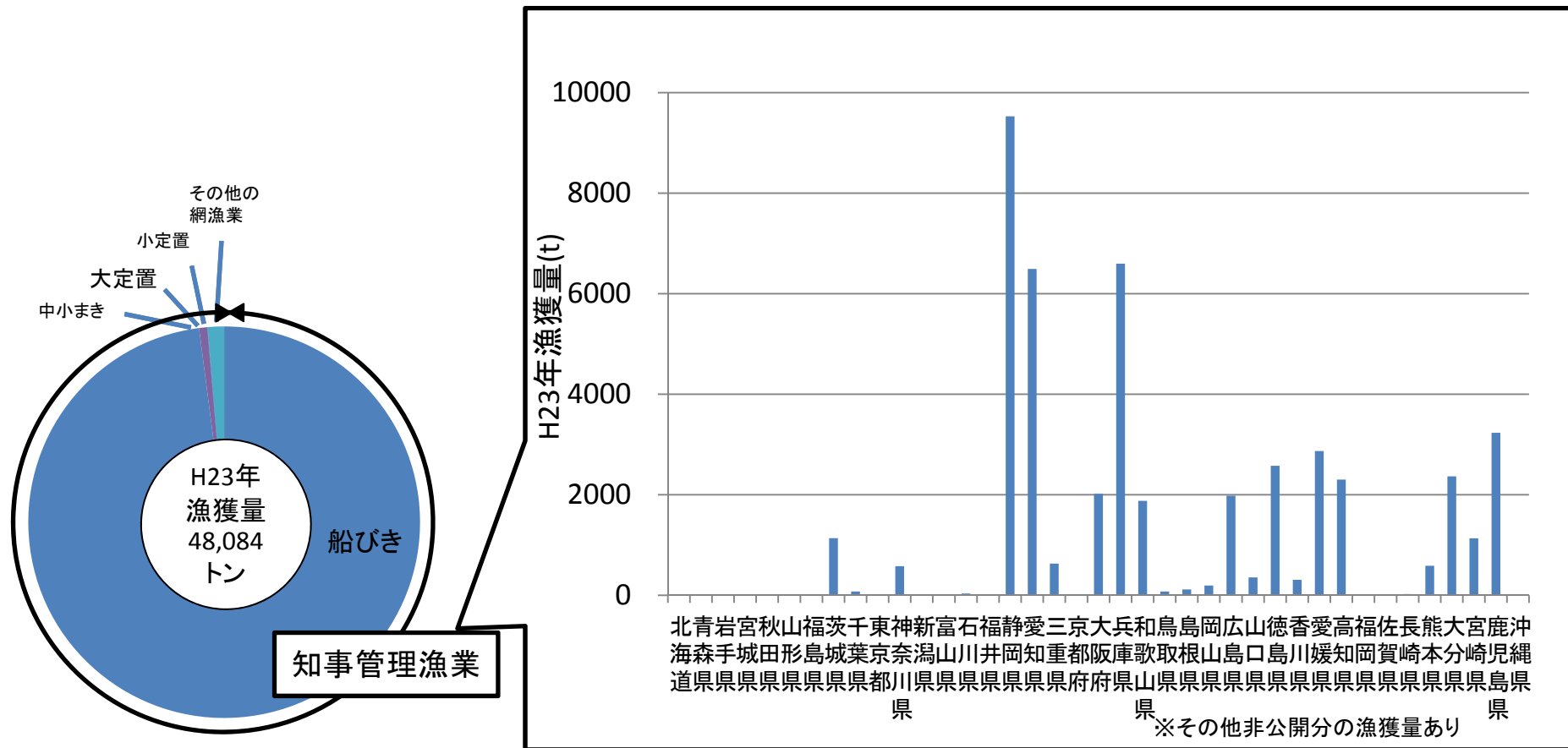
○カタクチイワシ(シラスを除く)の生産量の75%が知事管理漁業によって漁獲されている。

○カタクチイワシを漁獲する漁業種類は、大臣管理漁業では大中型まき網漁業、知事管理漁業では、船びき網漁業、中小型まき網漁業、大型定置網漁業、小型定置網漁業等である。



2-4. シラスを漁獲する漁業

○シラスの生産量の全てが知事管理漁業によって漁獲されており、その大半が船びき網漁業によるものである。



(参考)カタクチイワシの利用

○ カタクチイワシは、さまざまなサイズが多様な形態で利用されている。カタクチイワシの加工品は、いずれも国民生活になじみ深い食材であり、地域においても重要な産物である。

サイズ		食用						
名称	体長 (cm)	シラス	田作り	煮干し	味噌干し ゴマ漬	丸干し (目刺し)	生鮮	生餌
大ゴボウセグロ	13-15							
ゴボウセグロ	12-13							
中ゴボウセグロ	10-12							
中セグロ	9-10							
ジャミセグロ	6-9							
カエリ	5							
シラス								

出典：(独)水産総合研究センター資料を一部改変

○ カタクチイワシ加工品等の生産量の多い都道府県

煮干し品 しらす干し	素干し品*	煮干し品*	塩干品*	生鮮食品向け**	養殖用又は漁業用 餌料向け**
静岡県	山口県	長崎県	千葉県	千葉県	千葉県
和歌山県	大分県	愛媛県	大分県	鳥取県	鳥取県
兵庫県	千葉県	熊本県	高知県	北海道	宮城県
愛知県	鳥取県	千葉県	鹿児島県	宮城県	鹿児島県
愛媛県	静岡県	香川県	島根県	鹿児島県	京都府

出典：平成21年度水産物流通統計年報 より作成

注.*はいわし加工品の生産量の上位県を、**はかたくちいわし(生鮮)の「生鮮食品向け」及び「養殖用又は漁業用餌料向け」の仕向けが多い漁港の所在道府県を記載。

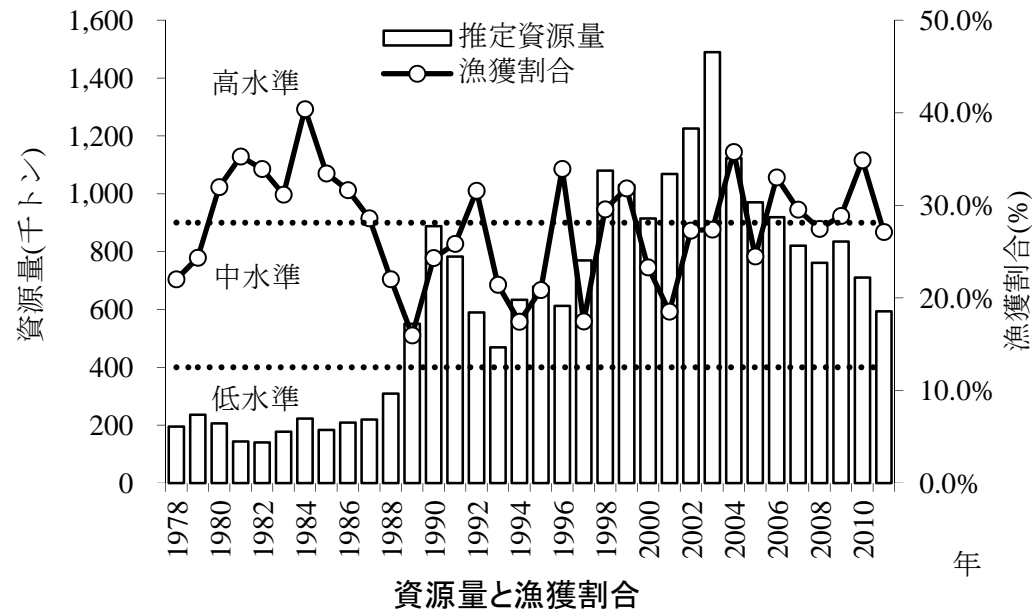
3-1. カタクチイワシの資源動向等(太平洋系群)

○ 水準・動向等

・水準は中位。近年の資源量の推移から動向は減少。

○ 資源の特性

・最も資源規模の大きな系群。他の系群に比べ海洋環境の影響により大きく変動。



○ 漁獲との関係

- ・代表的な漁業種類は、大中型まき網(常磐、房総)、船びき網(福島から鹿児島沿岸)定置網(各地)、中小まき網(各地)等。
- ・現在の漁獲圧は高くなく、親魚量を望ましい水準以下にってしまうリスクは小さい。
- ・シラス漁獲量と0歳魚資源量に関係はみられずシラス漁業が資源に与える影響は小さい。

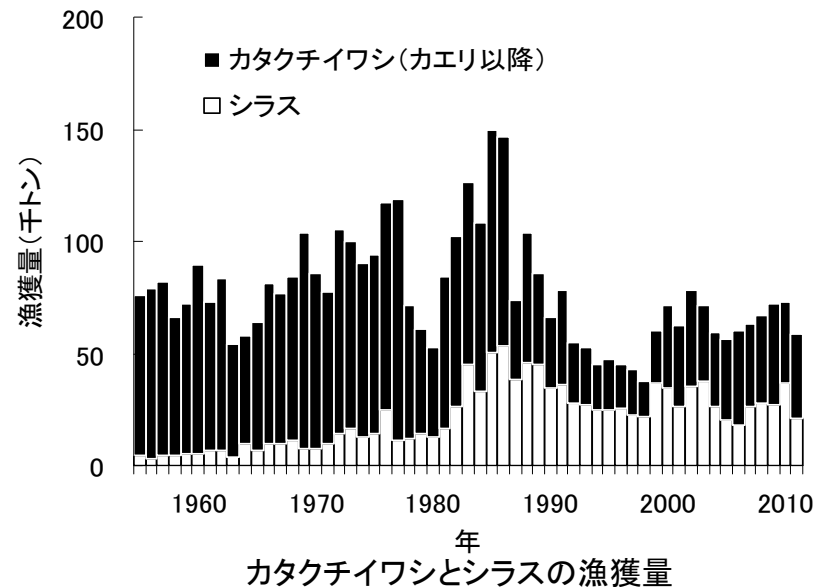
3-2. カタクチイワシの資源動向等(瀬戸内海系群)

○ 水準・動向等

- ・水準は中位。近年の資源量の推移から動向は横ばい。

○ 資源の特性

- ・瀬戸内海における再生産と春期に太平洋から来遊するシラスによって資源が維持されている。



○ 漁獲との関係

- ・代表的な漁業種類は、中型まき網、船びき網等。
- ・資源に対する漁獲の影響が大きい。
- ・シラスを含め各サイズが漁獲対象となっており、同じ漁獲量であっても、どのようなサイズで漁獲されたかによって資源への影響は異なる。
- ・シラスの漁獲量が多いことから、シラスを含めた漁獲管理が重要。

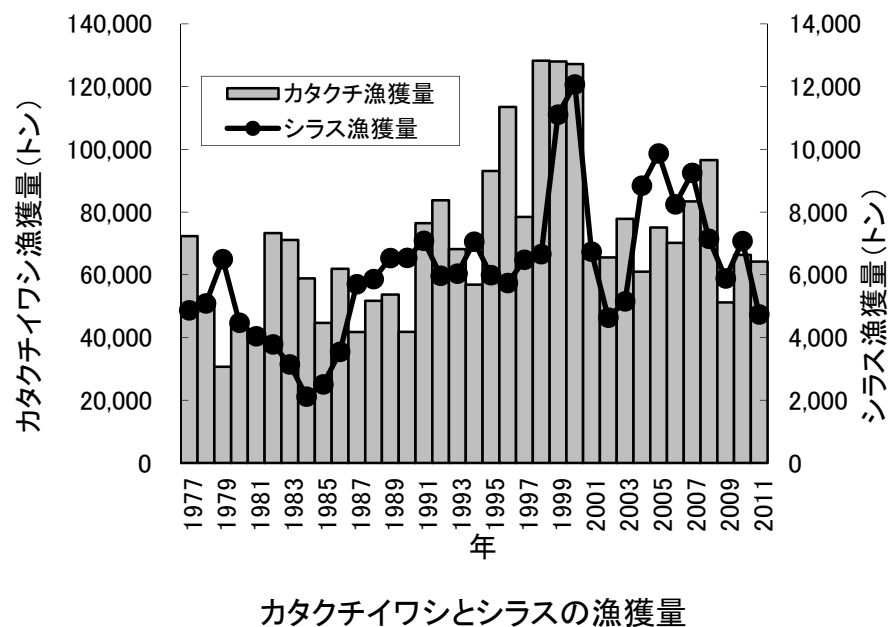
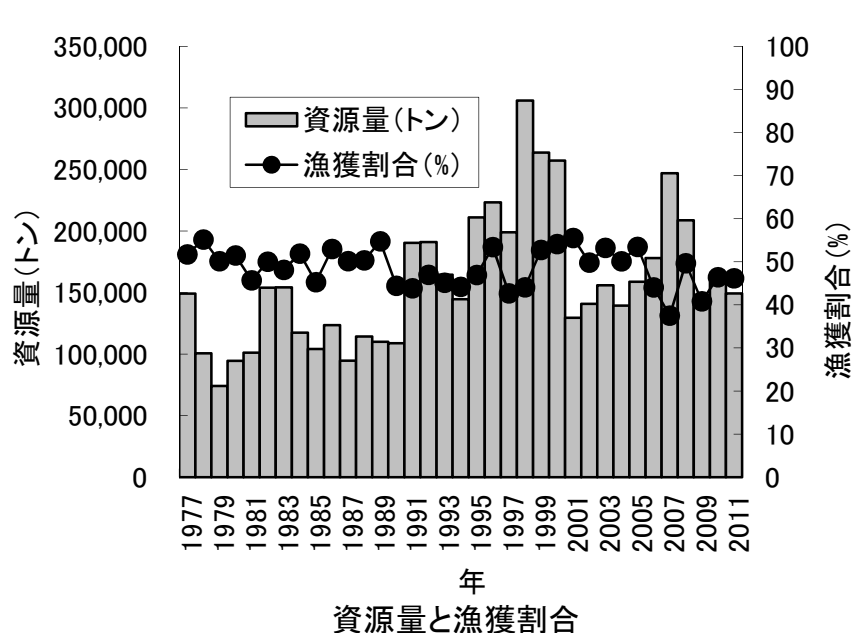
3-3. カタクチイワシの資源動向等(対馬暖流系群)

○ 水準・動向等

- ・水準は中位。資源量の推移から動向は減少。

○ 資源の特性

- ・海洋環境の影響を受けるが、最も資源状態が安定している系群。

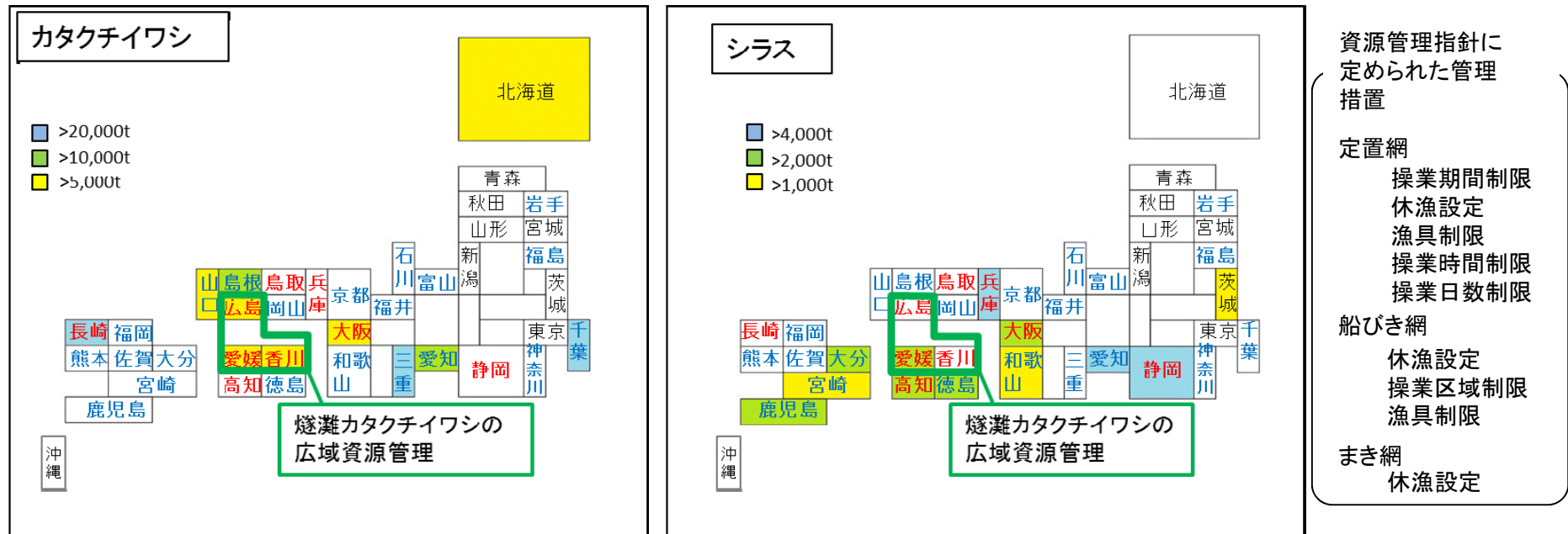


○ 漁獲との関係

- ・代表的な漁業種類は、定置網(日本海北部、西部)、大中型まき網(日本海西部、東シナ海)、定置網(日本海西部)等。
- ・資源に対する漁獲の影響は小さいものの、漁獲割合はほぼ一定であり、資源量に応じた漁獲が維持されている。
- ・シラスの漁獲が資源に与える影響は瀬戸内海系群に比べると小さい。

4-1. カタクチイワシの資源管理の取組み状況①

- 国の資源管理指針:カタクチイワシの資源管理について定めていない。
- 都道府県の資源管理指針:漁獲のある34道府県のうち、カタクチイワシを魚種別資源管理の対象としているのは、静岡県、大阪府など9府県。漁業種類別資源管理の対象としているのは、岩手県、福島県など22府県。



図中の色は、漁獲量の水準を示す

都道府県が定めた資源管理指針においてカタクチイワシ若しくはシラスを管理の対象としている場合、赤字、漁業種類別資源管理の対象としている場合、青字で表示。

- 瀬戸内海系群においては、広島県、香川県、愛媛県が連携してカタクチイワシの広域資源管理の取組みを実施。

4-2. カタクチイワシの資源管理の取組み状況②

燧灘カタクチイワシの広域資源管理

- 参加県 : 広島県、香川県、愛媛県
- 漁業種類: 瀬戸内海機船船びき網、いわし機船船びき網漁業
- 取組内容: 「カタクチイワシ 瀬戸内海系群(燧灘)資源回復計画」の内容に引き続き取組み。

○資源回復計画の内容

- ・目標: 漁獲圧力が高い瀬戸内海系群カタクチイワシについて、資源水準を平成12年～16年の初期尾数の平均346億尾と同程度に維持する。

・資源管理措置の内容

a. 休漁期間の設定

- 瀬戸内海機船船びき網漁業: カタクチイワシの産卵状況をふまえた関係者の協議による操業開始日及び終漁日の設定
- いわし機船船びき網漁業: 操業期間制限
(4月1日～5月31日、11月22日～翌年3月31日)

b. 定期休漁日の設定

- 各県水産試験場、(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所、瀬戸内海漁業調整事務所で構成された「燧灘資源管理検討会」により取組を支援。
- 平成17年～平成23年の資源回復計画の期間において、平成16年以前に比べて平均1割の漁獲割合の削減を実現。

5. これまでのまとめ

- カタクチイワシは全国各地で多様な漁業種類によって、シラスから成魚まで、様々なサイズが漁獲対象となっている。
- 対馬暖流・瀬戸内海・太平洋の3つの系群は、それぞれ資源や漁獲の状況が異なる。

太平洋 : シラス、カタクチイワシとも漁獲が資源に与えている影響は小さく、現時点で特段の管理を要さない。

瀬戸内海 : 漁獲の影響が大きく、シラスを含めた管理が重要。特にシラスの管理が重要。

対馬暖流 : 資源に対する漁獲の影響は小さくないものの、漁獲割合はほぼ一定であり、これまでのところ資源量に応じた漁獲が維持されている。

- 対馬暖流・瀬戸内海系群は同じ数量を漁獲したとしても、どのようなサイズで漁獲されたかにより資源への影響は異なる。
- 漁獲による影響が大きい瀬戸内海においては、一部海域(燧灘)において、広域的な資源管理の取組みが実施されている。